

課題解決に向けた大きな一歩

長岡技術科学大学と連携協定

1月19日、町は新潟県長岡市にある国立大学法人長岡技術科学大学（東信彦学長以下「長岡技科大」）、独立行政法人国立高等専門学校機構鹿兒島工業高等学校（霧島市丁子哲治校長）の3者による包括的連携協定調印式を行いました。

長岡技科大は町の基幹産業であるジャガイモの種苗生産技術の研究に昨年11月から取り組んでいます。協定は、両校の専門的な知見を生かし、この研究のほかにも漁業や環境・エネルギー問題、地域活性化、人材育成など多岐



↑調印後、手を取り合う川添町長、東学長、丁子校長（写真左から）

にわたり今後協力し合うことを目的に締結されました。

式では、川添町長、東学長、丁子校長による署名が行われたあと、3人が力強く手を取り合い、川添町長が「さまざまな分野で研究を進め高い技術を持つ長岡技科大と締結できたことは非常に心強い。今回の協定を将来にわたり長く実行していきたい」とあいさつ。東学長は「地方創生、地域活性化に関して、全国に先駆けたモデルとなるよう大学全体で進めていきたい」と話しました。

今回締結した協定の内容

- (1) 農業・漁業・工業の振興に関すること
- (2) 環境問題、エネルギー問題、食糧問題、景観問題などの解決に関すること
- (3) 文化・教育及び学術の振興・発展に関すること
- (4) 国際交流・人材育成に関すること
- (5) 地域活性化に関すること
- (6) 施設の相互利用に関すること
- (7) その他3者が必要と認める事項

長岡技術科学大学とは：

長岡技科大は、実践的・創造的能力を備えた指導的技術者の養成という社会的ニーズに 대응するため昭和51年、新潟県長岡市に創立。大学院に重点を置いた工学系大学として、高等専門学校卒業生を主たる対象とし、現在約2500人の学生が在籍しています。その約1割がアジアなど諸外国からの留学生となっていて、高度な学力と技術力（現場力＋研究力＋想像力＋実践力）と豊かな人間性を持ち、未踏領域・未踏分野に挑戦し、技術イノベーションを興せるグローバルな技術者を育てる大学です。

昨年の日本経済新聞社などが行った企業の人事担当者から見た大学のイメージ調査「就職力ランキング」では、名だたる有名大学をおさえ同大学が1位となりました。



↑幅広い分野で研究を行う長岡技科大のキャンパス

ジャガイモ種苗生産に関する取り組み

長岡技科大によるジャガイモの種苗生産技術の研究が水産種苗センター（薄井）などで始まっています。

この研究では、同センターで汲み上げている地下水を利用し、ウイルスフリー（無菌）の種いもの生産に取り組んでいます。この研究がうまくいけば、病気に強い種いもが、通常よりも早いスピードで生産できるとの期待が込められています。

研究に取り組んでいるのは同大学の牧慎也特任准教授で、研究に使われている技術をブドウなどに生かして実績を持つているかたです。牧准教授は「長岡町の地域発展のため、ジャガイモ生産の未来を長島から世界へ向けて発信していきたい」と意気込みをみせました。

大学主催のイベントを開催します

3月17日～19日、本協定に伴う国際会議を開催します。会議には、国内外から環境やエネルギー、食糧問題に詳しい有識者らを本町に招き、町のエネルギー資源や食糧環境などの視察を踏まえ意見交換を行う内容（予定）となっています。